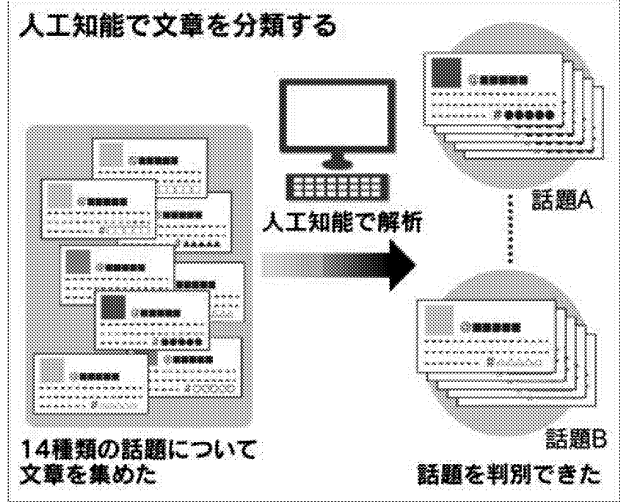


SNS投稿内容で分類

AI、キーワードや言葉づかいから

筆者も識別可能

法大、深層学習を応用



ホ)が普及し、いつどこでも投稿できる可能性がある。ネット上の多数の記事からでもソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)で情報を発信できるようになった。災害時に多くの人が投稿する情報を内容ごとに整理し、避難や救助を求めている人や場所を推定できる可能性がある。

のにも使えるという。分類の精度を確かめようと、小説や新聞記事でも試した。著者10人が書いた104冊の小説と新聞4社が載せた記事2万2400本をそろえた。深層学習で解析したところ、小説の著者や、記事の新聞社を8割を超える精度で見分けたという。同じ言葉でも筆者が違っていると使い方にばらつきがあるためとみられる。

今後、分類に使った特徴を解析できる技術を開発する計画だ。

(遠藤智之)

法政大学の弥富(いやとみ)仁准教授らは膨大な数の文章を似通った内容ごとに分類する人工知能(AI)を開発した。深層学習(ディープラーニング)技術を用い、キーワードや言葉づかいを調べる。短文投稿サイト「ツイッター」の文章から投稿者が関心を持つ話題を分析したり、小説から著者を推定したりできる。地震などの災害時にネット情報をもとに被災状況を知る技術の開発につながる。

最新のAI技術である深層学習は、大量に集めたデータの特徴を自ら識別できる。米グーグルの傘下企業が膨大な数の棋データを読み込ませ、世界トップ級の棋士

に勝った対局で注目を集めた。研究チームは、開発したAIでツイッターに投稿された約7万通りの文章を解析した。一部を読み込ませて、章中の文字の形や並びを学ばせた後、残りの文章を使って文字の並びなどから話題を判別できるかを試した。それぞれの文章はあらかじめ14種類の話題が決

まっており、約7割の精度で見分けたという。多くの投稿を内容ごとに分類できれば、ネットから必要な情報を効率よく探せる。スマートフォン(スマ